

〈はじめに〉

私は 2026 年 8/8 から 8/22 までの 2 週間、タイにあるカセサート大学にて短期研修プログラムに参加しました。将来海外で働くことに興味があり、タイの獣医療について学びたいと考えていたことから本プログラムに応募しました。またこのプログラムでは馬やエキゾチックアニマルの診療から魚病など、普段の大学生活では経験する機会が少ない幅広い分野の獣医師の仕事に触れられることも参加を希望した理由の一つです。

〈授業〉

1 週目は Aquatic medicine と Diagnostic center の授業をそれぞれ 2 日間受けました。Aquatic medicine の 1 日目は魚に関する講義を受けました。3 年次に履修した魚病学を思い出しながら授業を受けましたが、日本と扱われている魚が異なることも多く、理解するのが難しい部分もありました。午後にはエビの養殖場に行き、エビの飼育に適した水かどうかを調べました。現地の学生さん達が丁寧に教えてくれたため楽しみながら取り組むことができました。2 日目は朝から Van に乗りティアピアの養殖場を訪問しました。ティアピアはタイでよく食卓に並ぶ魚だそうです。養殖場では水の循環させる方法を工夫することで病気を防いでいることを学び、水の管理の重要性を実感しました。午後はワニセンターを訪問しました。ワニの飼育施設に入りワニの卵を取ってくるという日本ではなかなかできない体験をしました。施設のオーナーの方からワニの雌雄の見分け方などについても丁寧に説明していただきました。

Diagnostic center では 1 日目に ELISA、2 日目に PCR を行いました。私は基礎系のゼミに所属しているので実験できるのがとても楽しみでした。実習ではコンタミネーションを起こすことなくどちらの実験も終わられてよかったです。また私は現在ファージの実験を行っているのでタイのファージ事情も尋ねましたが、カセサート大学ではあまり行われてないようでした。



ワニを抱かせてもらう



カメのエコー



カメの腹水を抜く処置

2週目は Exotic unit と Equine unit でそれぞれ2日間の研修を受けました。Exotic unit の1日目はカメ、インコ、ウサギ、イグアナなどの動物の診察を見学しました。その中でも腹水の貯留していたケヅメリクガメの診察では、腹水を抜く処置を実際に行いました。またレントゲンやエコー、腸のつまりを改善するために振動する機械、糞便検査と多様な治療法が用いられていました。2日目の午前中は象と猛禽類の診察を見学しました。象の診察では赤外線のようなものを当てて治療を行いました。象の治療はタイならではのよい経験が出来ました。猛禽類は自分たちで捕獲し、身体検査を行いました。特に印象的だったのは猛禽類のBCSの判断の仕方です。午後はヒゼンダニに感染していると考えられるヤギとワラビを見ました。ヒゼンダニは4年前期の人獣共通感染症で学んだばかりだったため、授業で得た知識と実際の症例を結びつけながら理解することができました。

Equine unit の1日目はハプロネミア症に感染した馬の手術を見学しました。陰茎や目に感染が広がっていて潰瘍している部分を取り除く手術でした。私は4年生で、これまで手術の見学の経験が少なかったため、麻酔導入から覚醒まで見られてよい経験になりました。2日目は10年間病気に苦しみ安楽死を検討している馬の診療を見学しました。オーナーさん家族の中でも安楽死をするかどうかで意見が分かれているようで、安楽死はとても難しい問題だと感じました。

〈生活〉

研修期間中は祝日があり、土日を含めて3日間の休日があったため、観光する時間が多くありました。1日目はバンコクの観光地、2日目はアユタヤ、3日目はバンコクのショッピングモールを訪れました。タイの学生さんや先生たちがおすすめの場所を教えてくれたため充実した観光が出来ました。

食事は大学構内のCanteenやカフェ、コンビニエンスストア、マーケットを利用しました。マーケットの水や氷に注意していましたが、幸い一度もおなかを壊すことなく2週間を終えることができました。またアイスクリーム店、ヨーグルト店などスイーツを扱うお



ゾウの診察



ウマの診察



ワニの赤ちゃん

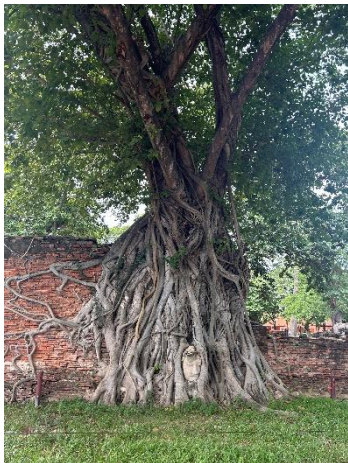
週間を満喫できました。

寮はゴキブリやイモリがでて驚くこともありましたが、自動販売機が充実しており、毎日清掃も入るため快適に生活することができました。またコインランドリーは24時間利用でき50バーツで洗濯できたため持参した服が少なくでも困ることはありませんでした。しかし、寮には電子レンジやお湯を沸かすものがなかったため持参した日本食が食べられず残念でした。

〈おわりに〉

カセサート大学での生活は非常に充実しておりあっという間の2週間でした。日本では見られない動物たちと触れ合えたこと、現地の先生や学生と沢山話ができたと、すべてが忘れられない思い出です。この貴重な経験を活かして私の理想とする獣医師に近づけるように努力していきたいと思います。

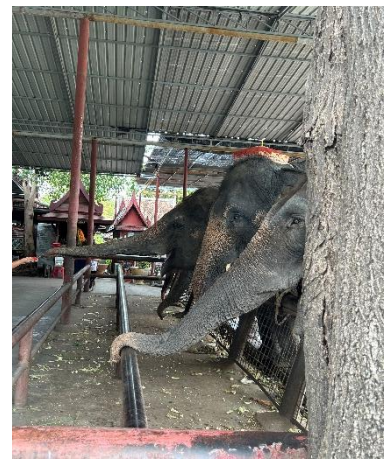
最後に酪農学園大学およびカセサート大学の先生方、現地の学生の皆さん、一緒に参加した留学メンバーの皆さん本当にありがとうございました。



アユタヤ



ワットパクーナムパーシーチャルーン



ゾウ